



ポーラー・ダイビング (Polar Diving)

極地を訪れることは素晴らしい冒険ですが、波のすぐ下には、あなたが体験し探検するための特別な別世界が待っています。



南極・北極でのスキューバダイビングツアー

私たちの極地探検クルーズでは、現地の野生動物や地形に直接接触することができますが、海を知り尽くしているからこそ、波の下での比類ない冒険を実現することができるのです。

北極または南極のダイビング・クルーズに参加すれば、あらゆる意味で真の探検となり、極地の最も美しいダイビング・スポットにアクセスすることができるのです。

氷山の底を探検し、エキゾチックな海洋生物に出会い、氷と光と水の美しい共演を楽しむ、滅多に見ることのできないエキサイティングなアクティビティです。

ダイビングや旅程の詳細は、長年極地で様々な業務に携わってきた国際色豊かなガイドの豊富な経験に基づいています。

私たちと一緒にダイビングをすれば、最高の極地冒険を最高の手で実現することができるのです。

ダイビング活動に関する一般的な情報

- ・ダイバーは、冷水でのドライスーツ ダイビングの経験が必要です。
- ・1日1~2ダイブ(午前・午後)を目安にしています。
- ・ダイビングができるかどうかは、現地の氷の状態や天候に左右されます。

- すべてのダイブガイドは、その分野で認定された経験豊富なエキスパートです。
- 船内では基本的な機材（タンク、コンプレッサー、ウェイトなど）を用意していますが、ダイバーは各自で機材を持参してください。
- ソディアックボートからのダイビングを行います。
- 最大潜水深度は約 20 メートルです
- 南極でも北極でも、ホヤ、スクワットロブスター、クモガニ、ウミトサカ目、イソギンチャク、孔雀ワーム、アブラツノザメ、ヨーロッパタマキビ、カニ、カメガイ、shrubby horsetails、クラゲ、sea edgehogs、ケルプウォール、数種のヒトデなどを観察することができます。
- このアクティビティの予約に関する詳細は、各コースのクルーズ代金の項目でご確認ください。

南極ダイブ・プログラム（南極半島、フォークランド諸島、サウスジョージア島）

南極大陸のまばゆいばかりの氷山、巨大な氷河、そびえ立つ山々、そして白砂のビーチと緑豊かな亜南極の島々に匹敵するものがあります。どちらの地域にも、ペンギン、クジラ、アザラシ、海鳥など、さまざまな動物が生息しています。

私たちの南極のダイビング・プログラムは、北極のプログラムに似ています。ソディアックから浅い水深（20m 前後）で氷壁、海洋生物、時には難破船を探索します。

ペンギンやオットセイ、ヒョウアザラシなどが観察できるかもしれません。また、亜南極の島々の多くには、多くの海洋生物の主食であるオキアミが豊富に生息しており、野生生物の位置を特定するのに非常に有効です。

極域の天候

北極圏のクルーズは、気候が穏やかな北半球の夏（5月～9月）に行われます。この時期、太陽は1日24時間輝き、気温は5～15℃になることが多いです。

南極大陸の南半球の夏（12月から2月）の気温は一般的に氷点下に近く、-5～8℃の間で変動します。さらにカタバティック風が強く吹くため、より寒く感じられることもあります。

両地域、特に南極大陸では防寒・防水の服装（と柔軟な姿勢）が必要です。悪天候の場合、安全な状況でなければツアーは実施できないため、上陸やダイビングを中止することがあります。

天候や氷の影響によるプログラム変更

私たちはダイビングの目的地を熟知し、常に新しい場所を開拓していますが、どのダイビングでも驚きに出会うことがあります。極地では自然が主導権を握っていることを忘れてはいけません。個人的な期待に応えられなかったとしても、それは弁償の理由にはなりません。

私たちの旅程は、常に現地の安全な状況に左右されることをご了承ください。氷、天候、野生動物などの影響により、スケジュールが変更になる可能性があります。また、氷のために特定の湾やフィヨルドが閉鎖される可能性があります。

そのような場合、私たちは常に代替案を用意しています。しかし、このような代替案は払い戻しの根拠にはなりません。旅程を変更する場合、船長、エクスペディション・リーダー、ダイビングリーダーが同等の代替プログラムを提供するために最大限の努力をすることを保証します。

ダイビングの経験と資格

私たちの極地ダイビングは、初心者向けではありません。寒冷地でのドライスーツでのダイビングに慣れている、経験豊富なダイバーのためのものです。参加するには、少なくとも30回以上のダイビングを経験している必要があります。

出発前に、国際的に通用するダイビング証明書とログブックをご提示ください。また、ダイバー個人情報記入欄には、そのコピーを添付してください。

最初の1ダイブは、「チェック・ダイブ」と呼ばれ、ダイビング器材を試し、参加するのに十分な経験があることをダイブリーダーに確認するためのものです。これはお客様とガイドの安全のためです。

ダイブリーダーが必要な経験を満たしていないと判断した場合、そのダイバーをダイビング・プログラムから除外することができます。この場合、オーシャンワイド・エクスペディションズ社は、責任を負わず、払い戻しの請求も認めません。

すべてのダイバーは、常にダイブリーダーやガイドの指示に従ってください。すべてのダイバーは、100%自己責任で参加するものとし、これは陸上ツアーでも同様です。

エクスペディションチーム、エクスカーション、ダイブリーダー

私たちのエクスペディションチームは、エクスペディション・リーダー1名と複数のガイド講師で構成されています。チームメンバーは全員、極地の大自然の中で活動した経験が豊富です。

毎朝、朝食後、その日のプログラム（船の位置、地域に関する一般的な情報、旅程、エクスカーション中に予想される野生生物）をお知らせします。その後、午後と夕食後にエクスカーションの評価を行います。時には、エクスペディションチームがスライドショーを交えたレクチャーを開催することもあります。極域の様々な環境について、乗客にお伝えします。

私たちのダイブリーダーは、経験豊富なインストラクターで、1~2名のダイブガイドがアシストします。ガイドとダイブオペレーションは、特に断りのない限り、英語がメイン言語となります。

特記事項：安全第一

極地でのダイビングは、安全第一という重要なルールさえ守れば、通常のスキューバダイビングと何ら変わりはありません。

危険なスタントや深海へのダイビングを希望するダイバーは、この活動を控えてください。南極や北極には減圧室がなく、医療もほとんどなく、インフラもほとんど整っていません。船には医師が同乗し、応急処置のサポートを行っていますが、すべてのダイバーから危険な冒険を受け入れることはできません。

潜水作業

ダイビングサイトへのアプローチ

通常、1隻のゾディアックに乗船するダイバーの人数は6人で、ドライバー兼ガイドが1人です。ゾディアックに乗り降りする際は、常に貴重な器材に注意してください。オーシャンワイド・エクスペディションズは、個々の器材の紛失に責任を負いません。

チェック・ダイブ

航海はチェック・ダイブから始まり、すべてのダイバーが冷たい水に慣れ、器材を試し、必要なウェイトを決定することができます。ダイビングの前に、ダイビングポイント、天候、氷の状態、ダイビングの手順などの説明があります。

潮流

水流はいつでもどこでも発生する可能性があります。ダイブガイドは安全なダイビングスポットを選び、必要であればゾディアックに戻るための情報も提供します。通常、私たちが潜る場所は、もしあったとしても、殆ど流れはありません。

ダイビング仲間 ダイブパティ

ダイビングはパティシステムで行われます。ダイブガイドは、水中でダイバーに同行し、リードすることはありません。ダイブガイドは、ダイバーの安全のために水面にとどまります。ダイバーは、コンパスや水深計を読み、お互いに気を配れるだけの経験が求められます。パティチームが重要なので、できるだけダイバー同士をマッチングさせています。ダイバーがペアを組んでいないか、迷っている場合は、ダイブガイドがダイバーと一緒に、期待や経験について話し合います。同じような興味や経験を持つ人たちがペアになるようになっています。ダイバーの人数が偏って（かたよって）いて3人組が無理な場合は、ダイブガイドが同行します。

ダイブガイドとダイバーの比率

ガイド1人につき6人のダイバーが同行し、1探検クルーズで最大24人のダイバーが参加できるプログラムです。24名を超える場合は、ダイビングの回数を分けていただく必要があります。また、安全に管理するために、ダイビングの回数を減らすこともあります。

漂流流氷

これは本当に危険なことです。ダイバーが水中にいるときに流氷が接近してきた場合、流氷の真ん中で浮上すると、人の姿が見えにくくなることがあります。そのため、ダイビングをする際は、氷山が固着しているか、ブラッシュや流氷のない水面に浮かんでいる氷山の周辺に限定することが重要です。また、多くのダイブサイトには、ダイビングの上限である20mより深いスロープやフェイスがあります。ダイバーは責任を持って行動し、自己管理をする必要があります。

器材

キャビンに落ち着いたら、機器を保管したり吊り下げたりするためのエリアが与えられます。すべてのダイバーは、各ダイビングの前に自分の装備を準備することが求められます。漏れや破損に備えて、レギュレーターやドライスーツのスペアパーツはご自身でご用意ください。ダイバーは、ゾディアックへの出入りやタラップの上り下りだけでなく、自分の器材をセットアップして運ぶことが求められます。

潜水回数

1日1~2ダイブを予定していますが、氷の状態や天候が変化する可能性があるため、正確なダイブ回数をお伝えすることはできません。

可視性

流氷が多い場合、水面は平らで視界が良好なことが多いです。流氷が少ないと、日照時間が長くなり、うねりが発生する可能性があるため、プランクトンが発生することもあります。しかし、氷の状態や天候は毎年異なるので、予測することはできません。

ダイビング機材（ダイブ・エキップメント）

以下の機器をお客様ご自身でご用意ください。

- フード付きドライスーツ
- 水中用防寒具2セット
- 氷点下での使用に適したドライグローブまたはウェットグローブ/ミット
- 凍結防止のレギュレーター2個。（私たちは、アウトレットが2つに分かれた特別なボトルを使い、YまたはHバルブ構成でDINまたはヨーク（INT）適合接続の12Lスチールタンクを使用してダイビングをします）。
- クイックリリースが可能で、十分な吊り上げ能力を持つスタビライジングジャケットまたはBC。
- 圧力計。
- コンパスウォッチ。
- ナイフとトーチ。
- マスク、フィン、シュノーケル。

ドライスーツ

北極や南極の海は-1℃になることもあり、ドライスーツが唯一の防寒具となります。ドライスーツの種類は、体にフィットし、防水性があり、快適に使用できるものであれば、特に問いません。

ネオプレンのドライスーツは、伸縮性に優れ、保温性が高いというメリットがあります。シェルスーツは、保温性はありませんが、軽量で速乾性に優れています。それらはあなたを乾いた状態に保つただけに機能し、スーツの下に余分な衣服を重ねる必要があります。可能であれば、小型のドライスーツ修理キットを持参してください。

ドライスーツ用アクセサリ

フードがドライスーツに付いていない場合は、フードを持参する必要があります。フェイス&ネックシール付きの7mm ネオプレン製フードをお勧めします。

通常の7mm ネオプレン製セミドライグローブやミットもドライスーツに使用でき、比較的簡単に使用できます。3本指のミットは5本指のグローブより暖かいです。また、ドライスーツの腕にあるリングで密閉する特殊なドライグローブも使用できます。

手袋の圧迫を防ぎ、保温性を高めるために、短い手術用チューブやストローをリストシールの下に挿入して、スーツと手袋の間の空気交換を可能にすることができます。このタイプのグローブは、正しく使用しないと脱落する可能性があるため、さらなる練習が必要です。

フェイスマスク

標準的なマスクをお勧めしますが、マスクの種類は重要ではありません。慣れている方はフルフェイスマスクを使用してもかまいません。極地ダイビングでは、市販の曇り止めが効果的です。

レギュレーターがフリーフローした場合に備えて、予備のフェイスマスクをお持ちください。また、寒冷地ではストラップがもろくなることがありますので、予備のストラップとマスクをお持ちになることを強くお勧めします。

保温性インナー

水が冷たいほど、より多くの（そして厚い）下着の重ね着が必要になります。スーツによって2~3枚重ね着することをお勧めします。

最初のレイヤーとして、ポリプロピレンのライナーセットを着用することです。この素材は、体から出る水分を吸収する働きがあります。2層目には、フリース、合成パイル、シンサレートなどの厚手の保温素材を着用してください。最後のアウターレイヤーとして、防風性の高いシェルをお勧めします。

ワンピースタイプのジャンプスーツは、最も一般的で快適なダイビングウェアの構成です。ドライスーツや水温に応じて、さまざまな厚さのものが用意されています。

ダイビング後の服装

ダイビングの前、特に後に着用する暖かい帽子や暖かい防水手袋を持参することが重要です。

レギュレーター

通常のレギュレーターは、ファーストステージとセカンドステージの両方が凍結する可能性があるため、ダイビングを行う場所では機能しません。そのため、冷水ダイビングに適したレギュレーターを2セット（ファーストステージとセカンドステージ）持参する必要があります。

レギュレーターには、環境シールキットを取り付けることができるものと、メーカーから環境シールされた状態で出荷されるものがあります。レギュレーターの故障を防ぐために、レギュレーターは潜水前、潜水中、潜水後に適切な手入れをする必要があります。

水中では、レギュレーターが機能していることを簡単に確認する以外は、レギュレーターから息を吹き込まないようにしてください。その際、息の水分でセカンドステージが凍結しないよう、レギュレーターを口から離れた後、息を吐いてください。

プライマリーレギュレーターが凍結し、フリーフローを起こした場合は、バックアップレギュレーターに切り替え、プライマリーレギュレーターのバルブを閉めてください。レギュレーターの凍結を防ぐため、ダイビングの間には真水でレギュレーターをすすぐことは避けています。ダイビング終了後、すべての器材を水洗いします。

下記のレギュレーター2 セットが必要となります。

を含む第1セット。

- 凍結防止されたファーストステージとセカンドステージ（ホースを含む）。
- BC用ホース。
- 水中圧力計（SPG）。

を含む第2セット。

- 凍結防止されたファーストステージとセカンドステージ（ホースを含む）
- ドライスーツ用ホース

レギュレーターを水につけないためのコツ

- オリフィスからレギュレーターを取り付ける前に、必ずシリンダーバルブを短時間開けて水分を飛ばしてください。
- レギュレーターを取り外すためにパージするときは、圧力が下がった後に水が1段目に滴下しないように、2段目を1段目より低い位置で保持してください。
- レギュレーターは、氷や水がフィルターに落ちないように慎重に取り外してください。
- ダストキャップは十分に乾燥させてからレギュレーターに取り付けてください。
- レギュレーターを洗浄する前に、ダストキャップをしっかりと装着してください。
- レギュレーターの洗浄中は、パージボタンを押さないでください。
- レギュレーターを吊り下げる前に、2段目の余分な水分を振ってください。

船内で提供する機材

タンク

すべてのダイビング船には、コンプレッサーと、DINとヨークに対応した接続口と2つの独立したアウトレットを持つ、各12リットル（200気圧）のスチールタンク35基が設置されています。

ウェイト (Weights)

ハードリードのウェイトとベルトは用意されますが、アングルウェイトの用意はありません。ウェイトハーネスを持参し、使用することは可能です。

ダイビング以外の航海

南極や北極でのダイビングは素晴らしい冒険ですが、通常の陸上ツアーもまた素晴らしいものです。エクスペディション・リーダーの事前承認があれば、ダイビングの代わりにスリル満点のショアエクスカーションやゾディアッククルーズに参加することも可能です。この組み合わせは、私たちの探検クルーズのユニークさを特徴づけており、あなたに究極の極地体験を与えてくれることでしょう。

ゾディアックは、美しいフィヨルドや流氷の中、海岸まで安全にお連れします。通常、午前と午後1回ずつツアーを行います。ツアー時間は変動しますが、通常3~4時間です。

陸上にいる間は、ガイドの指示に従うことが大切です。グループから離れることは許されません。例えば北極圏では、ホッキョクグマの危険性を真剣に考えなければなりません。ホッキョクグマはもともとカモフラージュしているので、どこにでも現れ、警告なしに襲ってくる可能性があります。

また、環境やモニュメントに触れたり、取り除いたり、持ち出したりすることはできません。これには植物、石、羽毛、その他何でも含まれます。

また、動物たちの邪魔をすることも厳禁です。鳥の中には地面に巣を作るものもいるので、歩く場所に注意し、巣に近づかないようにしましょう。鳥の巣が乱されると、卵やヒナを狙う外敵に非常に狙われやすくなります。

ダイビングに関するFAQ&最終注意事項

1. どこまで深く潜るのか。

最大水深は20mです。多くのダイビングサイトでは、これよりも深い場所にスロープやフェイスがあるので、ダイバーは責任を持って自己管理をしなければなりません。

2. 平均的な視認性を教えてください。

流氷が多いと平坦な海域で視界が開けることが多いが、流氷が少ないと日照時間が長くなり、うねりによってプランクトンが大量発生することがあります。しかし、氷の状態や天候は毎年異なるので、視界は予測できません。

3. 潮流やドリフトダイブはどうするのですか？

潮流が問題になりそうな場所には、特に潮流のことが書かれています。潮流はいつでもどこでも起こりうるものです。私たちは、ダイビングの前に必ず流れを確認します。ドリフトダイブはしない。流氷があると危険だからです。水中で氷に覆われると、その中にダイバーが浮上しても見えないことがあります。ブラッシュアイスや流氷のない、座礁した氷山や浮氷の近くでのみダイビングを行います。

4. フルフェイスマスクは必要ですか？

これは、フルマスクでのダイビングに慣れているかどうかで決まります。

5. どのような手袋を持参すればよいですか？

手袋は7mm以上のウェットスーツ用を使用し、それ以外の場合はドライスーツ用の手袋をお勧めします。

6. なぜレギュレーターが2つ必要なのですか？

私たちは2つの独立したアウトレット（DINとヨーク接続）を使ってダイビングをしているので、万が一、片方のレギュレーターがフリーフロー（凍結）した場合、バックアップとして2つ目のレギュレーターを使用することができます。

7. レギュレーターの一つをDINバルブ、もう一つをISOバルブにすることは可能ですか？

はい、ISOレギュレーターと接続するためのバルブに入れるアダプターを搭載しています。アダプターなしでもDIN接続は可能です。

8. 小物を持ち運ぶのに防水バッグは必要ですか？

デッキでダイビング器材を準備する際に使用する防水バッグを持参するとよいでしょう。ゾディアックには、必要以上のダイビング器材を持ち込まないほうがよいでしょう。

9. 極地の水温はどのくらいですか？

氷点下またはそれより少し低いくらいです。

最終的な注意事項

- 極地潜水は、寒さと遠隔地のため、特に氷上潜水には大掛かりな装備が必要です。冷たい水の中では、空気の消費量が多くなり、より多くのエネルギーを消費し、疲労しやすくなることがあります。また、冷水は複雑な手作業を行う能力を低下させます。
- シュノーケルは安全装備の重要な一部で、アザラシや他の野生動物と一緒に潜るときによく使います。
- 水中でテストしていない新しい機材は持ち込まないでください。極地は新しい器材をテストする場所ではないのです。少なくとも4、5回のダイビングで使用したことがある器材をお持ちください。そうすることで、浮力やトリム特性の微調整ができ、ダイビング時に必要な重量に注意することができます。
- 出発前に航空会社に荷物の制限について問い合わせ、ダイビング器材の特別な許容量をリクエストしてください。超過手荷物はすべて自己負担となります。
- ダイバーは、各自のダイビング器材を事前に準備し、ダイビング後に手入れをすることが期待されます。レギュレーターやドライスーツは、水漏れや破損に備え、スペアパーツを持参してください。
- 船内にはレンタルはございません。ご出発前に必ずダイビング器材のチェックをお願いします。保管用のゴミ箱をご用意しております。
- ダイビング器材を梱包する際、詰め替えやロジスティクスのために、ご自身の器材をゾディアックから出し入れする必要があることに留意してください。
- 海外旅行保険に加入してください。探検クルーズへの参加は100%自己責任でお願いします。旅行書類（特にスキューバダイビング用の個人情報フォーム）には、乗客全員が、オーシャンワイド・エクスペディションズとダイビング・スタッフが個人の怪我や物的損害（物品の損失を含む）に対する責任を免除されることに同意する責任声明書に署名する必要があります。オーシャンワイド・エクスペディションズはいかなる賠償請求も受け付けません。